

平成30年度決算の概要(本院の増減の主なもの及び原因・その対策等)

区分	30年度決算額(A)	29年度決算額(B)	対前年度増減額(C) ((A)-(B))	前年度決算との比較 ((A)/(B))%	原因等	その対策等	
事業収益	21,360,685,658	21,199,510,549	161,175,109	100.76%			
・医業収益	19,355,629,145	19,174,494,304	181,134,841	100.94%			
うち入院収益	13,686,393,031	13,767,995,857	△ 81,602,826	99.41%	・内科系中心に患者の減少 ・手術件数(全体件数)の減による手術料収入の伸び悩み	・周辺の医療機関への紹介依頼活動の強化 ・PR活動の強化、麻酔医の確保に努力する ・病棟の再編・統廃合により病棟の効率化を図る	
うち外来収益	5,165,631,088	4,899,397,328	266,233,760	105.43%	泌尿器科、皮膚科、血液腫瘍内科等の患者増		
事業費用	22,211,659,470	21,531,257,547	680,401,923	103.16%			
(主な費用)							
・給与費	11,104,957,722	10,845,533,230	259,424,492	102.39%			
うち主要要素							
うち全職員の諸手当(除時間外手当)	2,648,184,230	2,577,965,452	70,218,778	102.72%	期末勤勉手当、児童手当等の諸手当増		
うち全職員の時間外勤務手当	785,093,581	699,563,627	85,529,954	112.23%	うち医師の増分16,934,677円、看護師の増分38,663,927円、後期研修医の増分25,305,571円(これらの合計80,904,175円)	30年度の医師の時間外手当額は340,077,399円、後期研修医の時間外手当額は119,002,106円、その理由の過半数は夜間休日の当直勤務分であり、当院の現在の救急体制では削減は困難と思料	
うち全職員の法定福利費分	1,394,810,780	1,362,748,703	32,062,077	102.35%			
うち人員増等(主として正規看護師の増分)※1	4,162,177,543	4,039,333,272	122,844,271	103.04%	年度中の職員数の増及び長期休暇者のうち産休、療休等有給者の増加による	病棟の再編・統廃合の検討により、現在の稼働病床を維持するために必要な人員を確保する	
・材料費	5,781,445,185	5,577,762,882	203,682,303	103.65%			
うち薬品費	2,540,992,121	2,323,707,131	217,284,990	109.35%	高額な腫瘍用薬及び化学療法剤の増		
うち診療材料費	3,125,764,361	3,137,273,872	△ 11,509,511	99.63%			
・減価償却費	1,896,015,167	1,840,397,021	55,618,146	103.02%			
・経費	2,160,512,363	1,993,909,208	166,603,155	108.36%	更新した電子カルテシステムの接続対応作業による増、光熱水費の増等		
経常損益	△ 850,973,812	△ 331,746,998	△ 519,226,814				
特別利益	退職手当組合還付金等	670,710,449	714,108,473	△ 43,398,024	93.92%		
特別損失	退職給付引当金繰入等	677,052,496	718,489,445	△ 41,436,949	94.23%		
純損益	(経常損益)+(特別利益)-(特別損失)	△ 857,315,859	△ 336,127,970	△ 521,187,889			

※1:時間外手当等諸手当、法定福利費分等も含んだ額